

兵庫県立歴史博物館紀要

度 界

第 32 号

大坂加番と藩政－播磨宍粟山崎藩本多家の場合－

藪田 貫 1

【資料紹介】

天正八年八月十二日付け但馬国出石郡赤花村検地帳写

前田 徹 27

【展覧会記録】

2019 年夏季特別企画展

「へんがおの世界－笑う門には福来たる！－」の開催について

藁科 宥美 98

(1)

2021(令和3)年3月

兵庫県立歴史博物館

【展覧会記録】

2019 年度夏季特別企画展

「へんがおの世界－笑う門には福来たる！－」の開催について

藁 科 宥 美

はじめに

当館では近年、年に4回、借用資料を中心とした特別展（2回）と館蔵資料を中心とした特別企画展（2回）を開催している。令和元年（2019）の夏季特別企画展では、「へんがお」をテーマとした展覧会「へんがおの世界－笑う門には福来たる！－」（以下、へんがお展）を開催した。

本稿は、展覧会担当者である筆者がへんがお展の開催について、発案から企画、実施、フィードバックまでの記録を記したものである。

当館に着任して3年、初めての展覧会を任されることになり、その内容を考えた時、頭に浮かんだのが、展覧会ごとに実施しているアンケート調査の自由記述欄にしばしば見られた「子どもも楽しめる展示が見たい」という意見であった。学校が夏休みの期間での展覧会実施ということもあり、子どもも楽しめるような体験型の展覧会を目指すこととした。

さて、展覧会によっては、浮世絵であれば作者である浮世絵師、古文書であればくずし字など、来館者にある程度の知識が求められる場合がある。（もちろん展覧会の担当者がそれらを補填する形で展示の工夫がなされている。）例えば、歴史好きの親が小学生を連れて展覧会を観覧していたとする。展示の中盤に差し掛かったところで飽きがきてしまった子どもが「ねーねー早く行こうよー」と親の手を引っ張る、といった姿を見たことはないだろうか。子どもたちの興味関心はコロコロと変化しており、大人がじっくり観覧するような展示では満足がいかないようである。そこで、子どもたちが飽きずに展覧会を回りきるために次のことを念頭に置き、展覧会の構成を検討した。①知識量に関係なく誰もが鑑賞を楽しむことができる展示にすること、②体験コーナーを会場内に複数設けること、③展示室内から笑い声が聞こえてくるような展示にすること。これらをベースにテーマを考えていった結果、たどり着いたのが「へんがお」であった。

次に「へんがお」というテーマについて述べる。変顔とは、見た人を笑わせるような、おかしい表情をつくることである。現代では、写真を撮るときに変顔をしたり、スマートフォン

の写真加工アプリを使って変顔をつくることも話題となっている。このように変顔はとても身近なものとなっている。では、歴史的に見るとどうだろうか。美術作品に描かれている「顔」には、その時代の特色が表れている。たとえば古代の土偶、中世の天皇や貴族の肖像画、また仏画の中の亡者や鬼・化物、近世の浮世絵の役者など、「顔」に焦点を当てるだけでも歴史の流れを感じることができる。さらに、「表情」に着目すると、そこには多様な表現によって感情が描き込まれている。顔の輪郭だけ描かれた紙の上に眉や目、鼻、口などのパーツを目隠しした状態で置いていく遊びである「福笑い」。これは江戸時代後期から遊ばれはじめ、明治期になると正月遊びのひとつとして定着していった。福笑いは想像していなかった「表情」になったことで笑いがうまれる遊びと考えることができる。

この頃から人はいろんな表情を使った遊びを考えるようになった。その一つが「百面相」というものである。正確には顔の表情をさまざまなものに変えるという百面相の考え方を取り入れたものである。例えば、小林清親が描いた「新版三十二相」（明治10～15年）では、生活の一部にあるような身近な表情である、あくびをする表情、お風呂に入って熱い時の表情、臭いものを嗅いだ時の表情などを錦絵の全面に大きく顔、表情を描くことで表現している。また、パズルのように組み合わせを変えることでさまざまな表情に変えることができる木製玩具などもある。このように当時の人も、人の表情に興味関心を抱いていた。そこで、現代の私たちが見るとどこかおかしい、笑ってしまう表情をしているヒト・妖怪・キャラクターを取り上げ、「顔」の表現の歴史を通して、表現豊かな日本美術の新たな一面を見ていくこととした。

1 展示内容

へんがお展では、すべての資料を館蔵資料、当館寄託資料で構成し、中でも当館のコレクションである、故入江正彦氏が収集した児童文化史資料「入江コレクション」を多く活用することで、様々なジャンルの資料を出品した。

(1) 展示構成

展示構成は以下のとおりである。

I 人－ヒト－を描く

i) 顔を知らう！－4つの表情－

ii) にらめっこしましょ！

iii) 怖い・・・？面白い・・・？

II ようかい界もへんな顔！

III 福笑い－遊びと笑い－

i) 懐かしのあそび

ii) 福笑い－正月あそびの定番！－

フォトスポット

体験コーナー

展示構成としては大きく3つにテーマが分かれる。1つ目は人の顔・表情に焦点を当てた「I 人－ヒト－を描く」。まず導入として、喜怒哀楽という視点から「顔の表情」について考える「i) 顔を知らう！－4つの表情－」を通して、様々な顔貌表現があるということを知ってもらおう。次の「ii) にらめっこしましょ！」では、錦絵や和本などに描かれる、思わずクスリと笑ってしまう“へんがお”に触れる。物語の内容や絵画の絵師に着目することの多い資料でも、「顔」に焦点を当てることにより、何気ないコマに描かれる人物の表情がより際だって見えるといったねらいである。「iii) 怖い・・・？面白い・・・？」では、「子供絵」と呼ばれる石版画に描かれる不気味な表情を浮かべる子どもの絵を通して、怖いと笑い（面白い）が紙一重であるというところに注目する。

2つ目のテーマである「II ようかい界もへんな顔！」では、恐怖を与える存在であった妖怪が江戸時代に入り、滑稽な姿で描かれることによりキャラクター化されていく。そんな愛らしい姿で描かれるようになった“ようかい”を絵巻物や子供玩具などで紹介する。

3つ目は「III 福笑い－遊びと笑い－」として、表情をつくって遊ぶ「福笑い」を取り上げる。「i) 懐かしのあそび」では、へんがおから少し離れて、現代とは様相が異なる懐かしの遊びや玩具について知ってもらおう。折り紙やカルタ、おはじきなど、今の子どもたちは触れたことがないかもしれない遊びを伝えるには博物館資料として残る実物を見てもらうのが効果的と考えた。最後の「ii) 福笑い－正月あそびの定番！－」は「笑う門には福来たる」というへんがお展のサブタイトルとして掲げていることと繋がる。「笑っている人の

ところには幸運が訪れる」という意味をもつこのことわざ。1年の始まりに正月遊びである「福笑い」をして家の中が笑いで溢れることは、どこかこのことわざを思い出させるという点から、最後の節に福笑いを取り上げた。

また、フォトスポット、体験コーナーに関しては「2 展示における工夫点」にて後述する。

(2) 主な出品資料

へんがお展では、顔の表情に注目し、出品資料の選定を行った。全130点程の中からいくつか資料を紹介する。

①北斎漫画【写真1】

『富嶽三十六景』の作者としても有名な葛飾北斎（1760～1849）がさまざまな事物について描いた絵を集めた絵本のこと。

文化11年（1814）、北斎が55歳の時に初編を刊行し好評を博し、その後人気は衰えることなく明治11年（1878）までに全十五編が刊行された。その内容は人物や動物、植物、妖怪など様々である。ゴッホやドガは北斎に影響を受けた画家の一人で、『北斎漫画』は「ホクサイ・スケッチ」の名前で世界的にも有名な作品となっている。



【写真1 北斎漫画（部分）】

②新版三十二相【写真2】

『新版三十二相』の作者である小林清親（1847～1915）は、「光線画」と呼ばれる風景画で人気を博した、明治を代表する浮世絵師の一人である。

『新版三十二相』は、明治10～15年（1877～1882）に制作されたもので、画面を四つ割りにした中に様々なシチュエーションの人物が表情豊かに描かれている。【写真2】右上の「あくび」では、口を大きく開け、顔の筋肉を存分に使っている様子がうかがえる。

③寄せ絵【写真3】

浮世絵のジャンルの一つに「寄せ絵」というものがある。字の通り、人物や動物を寄せ集めて、字や人の顔などを描くものである。

本展では、歌川国芳（1798～1861）の他、国芳の門人である歌川芳盛（1830～1885）が描いた『おあひだに寄合人となる』を紹介した。「おあひだ（おあいだ）」とは、仕事がなく暇になった人のこと。文久2年（1862）に麻疹が大流行し、数十万人が死亡したといわれている。この麻疹によって商売あがったりとなった“おあいだ”たちが寄り集まって一人の人を形作っているというわけである。

絵の中には、髪結い（床屋）や風呂屋、そば屋などの“おあいだ”が描かれている。

④百鬼夜行絵巻、百器夜行絵巻【写真4】【写真5】

百鬼夜行とは、さまざまな姿をした異形の鬼たちが、真夜中に行列をなして都を徘徊する怪異のこと。『百鬼夜行絵巻』に描かれている妖怪たちは、仏具や楽器など庶民になじみのない道具が化けた“付喪神”であることが特徴的である。これに対して『百器夜行絵巻』では、箒や桶、石臼など身近な

生活道具の妖怪が描かれている。

⑤幻灯器【写真6】

幻灯器とは、種板というガラス板に描かれた絵を差し込み、光を当てることでスクリーンに絵を映し出す光学玩具のこと。江戸時代、ヨーロッパより伝えられた幻灯は、日本式にアレンジされた「写し絵」という名前で普及した。その後、明治期になると学校での教育用、また子ども向けの娯楽用として「幻灯器」が出回るようになった。明治30年頃から比較的安価なブリキの幻灯器が子どもたちの人気を集め、大流行した。

⑥福笑い【写真7】

福笑いは、江戸時代後期から遊ばれはじめ、明治頃には正月遊びの一つとして定着していったとされ、第二次世界大戦後になると、アニメのキャラクターなどの福笑いが登場し、形を変えながらも、その文化が継承されてきた。

『しん板福わらい』は、江戸時代末期に歌川国芳の門人である歌川芳艶（1822～1886）が描いたもので、当時主流であったお多福が描かれた木版刷りの福笑いである。



【写真2 新版三十二相】



【写真3 おあひだに寄合人となる】

(3) 関連イベント

本展では、関連イベントとして、①展覧会ガイド、②特別企画展ワークショップ「オリジナル目かづらを作ろう!」、③いきいきトライアル「姫路はりこ・お面の絵付け」、④れきはくアカデミー「へんがおの世界を巡る旅」の4つを行った。②では、出品資料でもある「目かづら」を用いた工作型のワークショップを行った。「目かづら」とは、厚紙で目に当たる部分に穴をあけ、眉や額などを描いた、顔の上半分を覆う仮面のことである。この眉や目にあたる部分をペンなどで自由に描いてもらい、オリジナルの目かづらを作成するというもので、子どもたちがカラフルに絵を描いていたり、美術部員の学生が少女漫画に出てくるような目元を再現していたりと個性溢れるイベントとなった。【写真8】

また、④の講演会では、展覧会ガイドでは話せなかった資料の詳しい内容を説明した。また、タイトルの「巡る旅」というところから、出品資料以外の資料に描かれるへんがおを取り上げた。



【写真6 幻灯器、種板】



【写真4 百鬼夜行絵巻（部分）】



【写真7 しん板福わらい】



【写真5 百器夜行絵巻（部分）】



【写真8 目かづらワークショップ】

2 展示における工夫点

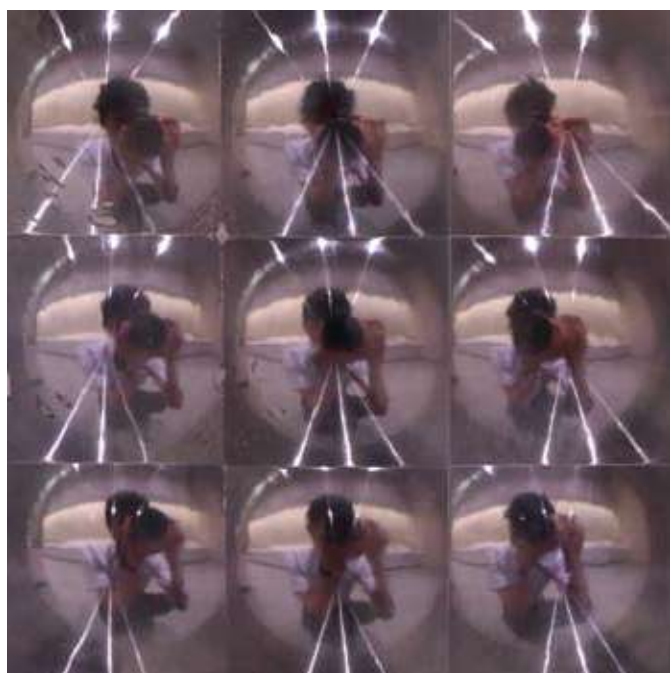
(1) 解説パネル

へんがお展のロゴに正方形を使用していた点から、章パネル、節パネル、解説パネルいずれも正方形で作成した。テーマごとにメインカラーを設定していたため、それに合う形でパネルの色、デザインも設定した。

解説内容に関しては、読み切ることができるように、解説パネルは150～200文字程度、解説付きキャプションは100～150文字程度でまとめた。顔の表情をじっくり楽しんでもらいたい資料に関しては、あえて解説は入れず、キャプションのみとした。

(2) 展示空間

へんがお展では多くの造作壁で、空間を区切り、先のエリアがあまり見えないようにすることで、ちょっとしたワクワク感を出す工夫をした。幻灯器の展示では、実物の幻灯器を使った投影を行うため、光を限りなく遮断した映写室を造作にて作成した。また、造作壁の経師紙にもほとんどの人が気づかないであろうこだわりがある。それは体験を伴うエリアの経師紙を通常のマット紙ではなく、少し凹凸のあるソフトな材質にしたところである。これは、後に紹介する体験コーナーにおいて、子どもが造作壁に触れる機会があることから、手に優しい素材を選んだ。また一方で、視覚障がい者の方に様々な感触を手で感じ取ってもらうという狙いの一つである。



【写真9 自分の顔をうつしてみよう！】

また、展示空間を考えた時、道幅を2m程度確保することも意識した。一般的な車椅子の横幅が約70cm、自走用車椅子の場合は乗っている人が動かすため、横幅は約1mになり、曲がり角においてはより広い道幅が必要になる。そのため、今回は2m程度の道幅を確保するという基準を設けて配置を行った。

(3) 体験コーナー

子ども向けの展覧会ということもあり、体験コーナーを複数の場所に設置した。

①「自分の顔をうつしてみよう！」【写真9】

ここでは造作壁に凸面鏡のように映る経師紙を使用することで、映る姿が歪み、顔を近づけることで変顔になるといった体験を行った。経師紙にすることで、身長などの高さ関係なく、複数人で体験をすることができる仕様とした。

②「上下絵をまわしてみよう！」【写真10】【写真11】

おもちゃ絵の一つである上下絵は名前の通り、上下逆さまにすることで違う見え方になるという錦絵である。実物は額装にて壁面に展示したが、実際回すことで本来の楽しみを体感できると考え、同展示スペースに複製を3点用意し、体験してもらった。絵柄から連想させ、文字を読もうとしている子どもたちもいて、楽しみながら学ぶことができる体験コーナーとなった。

また最後のエリアにて、ハンドル型の上下絵を設置した。上下絵からピックアップした絵柄を円形のハンドルにし、直接回すことで、小さな子どもや小学生でも絵柄の違いを楽しみながら理解できるように工夫をした。



【写真10 上下絵をまわしてみよう！①】

③「HEN 総選挙」【写真 12】【写真 13】

出品資料の中から 10 点取り上げ、人気投票を行った。会場入口に選挙ポスターに似せた資料紹介をパネル展示し、その資料に注目して展示を見てもらえるように工夫した。【写真 12】会場最後に投票会場を設置し、1 人 1 枚○シールをお気に入りのへんがおキャラクターに貼る形で投票を実施した。【写真 13】投票総数は約 6300 票。歌川国芳の寄せ絵である「人かたまって人になる」が 2029 票を獲得し 1 位となった。2 位以下の投票結果は【図表 3】のとおりである。

④「フォトスポット」【写真 14】

本展でのフォトスポットでは、日付をつけることにより、いつ誰とへんがお展を観に来たのかという思い出が形に残るように工夫をした。仕様はへんがおキャラクターの顔を顔出しパネルに使用したもので、小さな子どもでもフォトスポットに参加できるよう、顔出し部分の高さを約 1 m のものを 2 箇所、1.4 m のものを 1 箇所、計 3 箇所用意した。



【写真 11 上下絵をまわしてみよう！②】



【写真 12 会場入口 ポスター掲示】

⑤体験コーナー「おっきな福笑いを作ろう！」【写真 15】

通常、目隠しをして机上面にて遊ぶ福笑いを拡大し、マグネット状の顔のパーツを 1,800mm×2,000mm（タテ×ヨコ）の壁に貼り付ける体験コーナーを設置した。現代では徐々に遊ばれることが少なくなっている福笑いに触れてもらうきっかけとなるよう設置したコーナーだが、オリジナルの顔を作ったり、目を瞑って周りの指示を聞きながら顔を作ったり、来館者それぞれの遊び方をして楽しんでもらえた。

（4）パンフレット【写真 16】

パンフレットの作成にあたり、工夫した点が 2 つある。1 つ目は大きさ。A5 サイズにすることで、子どもでも持ちやすい大きさ且つ、鞆に入れやすい大きさにした。2 つ目は内容。内容は展覧会の内容を順に追えるような構成にし、子どもでも読むことができるよう平易な言葉で解説し、すべてにルビを振った。



【写真 13 HEN 総選挙 投票会場】



【写真 14 フォトスポット】

(5) 感想ノート【写真 17】

来館者の参加型の展覧会のため、来館者同士の交流ができればと、感想ノートを会場出口付近に設置した。枠組みは取って作らないことで、小さな子どもは自由に落書きを、大人は展覧会の感想を、美術部員は得意の絵で感想を表現するなど、「人によって展覧会の感じ方が異なる」ことを示す記録となった。通常のアンケートよりも気軽に書くことができたため、最終的に4冊のノートが文字と絵で埋まることとなった。



【写真 15 おっきな福笑いを作ろう!】



【写真 16 パンフレット (部分)】

3 まとめ

(1) 来館者の傾向と反応

本展は、8,679 人の方に観覧していただき、閉幕となった。当館では、展覧会ごとにアンケートを設置し、性別、年齢、居住地、情報獲得手段などを集計したものを、館内で情報共有している。このアンケート集計を元にへんがお展の来館者の傾向をみていく。

これまでの展覧会の観客動向から、歴史系は男性、美術系は女性が多くなる傾向があり、本展もまた美術資料を多く出品した展示であったことから女性が6割を占めていた。また、へんがお展の来館者の特徴としてこれまでと大きく異なる点は来館者の約4割が小学生であったことである。これは発案時にあった「子どもも楽しめる展覧会」という展覧会のねらいを達成する結果となった。アンケートには反映されてはいなかったが、会場を観察する限り、幼稚園児・小学生を連れた母親というものが多く見られた。また、美術部の中学生・高校生の来館があったことも印象的であった。反対に、当館の来館者層である40～70代がこれまでの展覧会より少なく、特に60代は1割にも満たない結果となった。

次に、展覧会の情報をどこでどの広告媒体で入手したかという点について。アンケートの結果から、「ポスター」が5割、「チラシ」が約2割で、ポスター掲示場所としては「学校」の3割が異例の多さとなった。このことから見ても、子ども向けとして企画された展覧会は広報の面でも学校へのアプローチが重要となることが分かる。へんがお展では広報戦略として、当館を中心に半径3.5kmの範囲内にある小学校22校の全児童(児童数約10,816人)に対してチラシの配布を行った。このように、展覧会の特色から広報戦略を考えることも展覧会を運営する上で重要であることが分かった。

来館者の反応としては、子どもを含むライトユーザーには楽しんでいただけたと思われる。これは、博物館の敷居を低



【写真 17 感想ノート】

くし、気軽に足を運んでもらえるような展覧会を意識した結果ではないだろうか。しかし、子どもでも読み切ることのできる解説パネルでの情報量の少なさや観覧中に疲れないようにと考え、制限した出品数は、学問的知識を求めて来館された方にとっては物足りなさを感じる要因となった。今後の課題として、詳しく解説しているもの、簡単に読むことができるものといったように、解説パネルに強弱をつけ、来館者自身で選択して読むことのできるような形式を実践していきたい。

（２）おわりに

今回の展示では、入江コレクションの福笑いを一堂に会したり、重要文化財である『仏涅槃写真』を数年ぶりに披露したりするなど、多くの方に当館の館蔵品を見ていただく機会となった。美術資料を「表情」という切り口から見ていくことで、一つ一つの資料と向き合うことができ、来館者それぞれが先入観なく様々な印象を受け取る。そのような自由度の高い展覧会を実施できたのではないか。博物館は知識を与えるだけではなく、それぞれが違った楽しみ方をすることができる場であってほしいと願う。

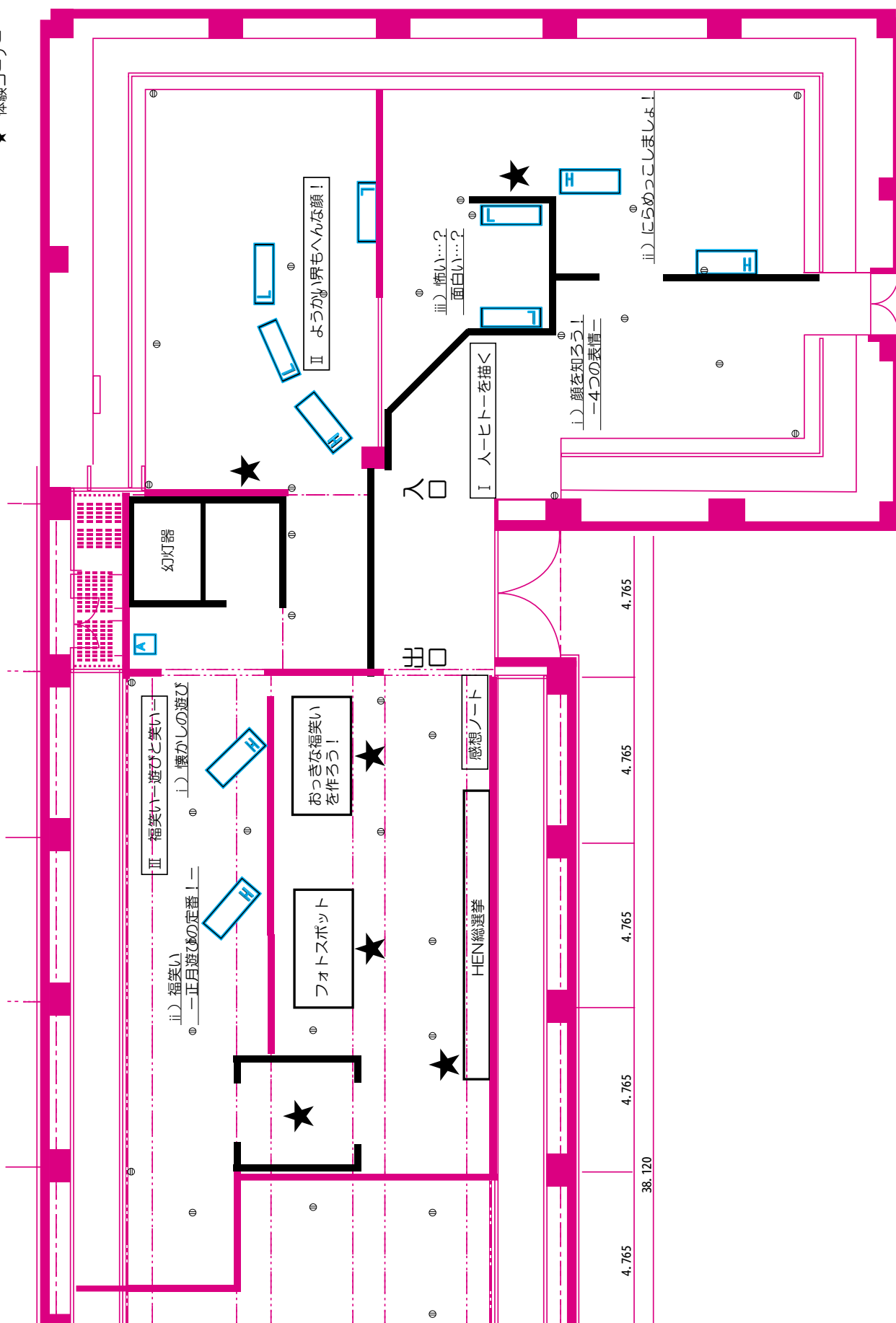
へんがお展では、まず“子どもたち”を対象とした展覧会を行った。誰もが楽しめる博物館＝ユニバーサルミュージアムを目指す博物館として、今後、ユニバーサルデザインを題材とした展示、展覧会を実現していきたいと考えている。

【写真 18】 会場写真



【図表 1】会場図面

★ 体験コーナー



【図表2】特別企画展「へんがおの世界ー笑う門には福来たる！ー」出品資料一覧

特別企画展



出品リスト

テーマ	No.	展示期間	資 料 名	数量	作 者 など	年 代	備 考
Ⅰ. 人-ヒトを描く							
i) 顔を知らう！ -4つの表情-	1	●	十二月月風俗図巻	1巻	森寛斎画	江戸時代末期～明治	県指定有形文化財 重要文化財
	2	○	多聞天立像	1軀		平安時代後期(11世紀)	
	3	A	仏涅槃図	1幅		鎌倉時代	
	4	B	仏涅槃図	1幅		室町時代	
	5	A	大阪安治川口大湊市中御加勢図	1枚	保丸画	天保2年(1831)	
	6	B	豊饒御藤参之図	3枚続	歌川芳幾画	慶応3年(1867)	
	7	○	淡路人形かしら 角目	1点		江戸時代～昭和	
	8	○	淡路人形かしら 娘	1点		江戸時代～昭和	
	9	○	淡路人形かしら 寄人	1点		江戸時代～昭和	
	10	○	淡路人形かしら 嬢	1点		江戸時代～昭和	
	11	○	淡路人形かしら 半道	1点		江戸時代～昭和	
ii) にらめっこしましょ！	12	○	北斎漫画	2冊	葛飾北斎画	文化11～明治11年(1814～1878)	パネルにて展示
	13	A	有卦絵	1枚	歌川国芳画	安政5年(1858)2月	
	14	B	有卦絵	1枚	豊原国周画	文久元年(1861)5月	
	15	A	人かたまつて人になる	1枚	歌川国芳画	明治	
	16	B	おあひだが寄合人となる	1枚	歌川芳盛画	文久2年(1862)頃	
	17	A	新板かたち風づくし	1枚	歌川芳藤画	弘化4～嘉永5年(1847～1852)	
	18	B	新板人形づくし	1枚	豊原国周画	明治15年(1882)	
	19	A	役者尽くし	1枚			
	20	B	役者尽くし	1枚			
	21	A	きせかへ画 第五	1枚			
	22	B	新板面尽役者のおもかげ	1枚	中井芳瀧画	明治4年(1871)	
	23	A	めんづくし	1枚	歌川芳藤画	明治14年(1881)4月27日	
	24	B	めんづくし	1枚	歌川芳藤画	安政元年(1854)	
	25	A	お面	1点		明治	
	26	B	軍人のお面	1点		明治	
	27	A	かぶき役者のお面	1点		明治	
	28	B	大黒のお面	1点		明治	
	29	A	金太郎のお面	1点		明治	
	30	B	はんにゃのお面	1点		明治	
	31	A	目かつら	1枚			
	32	●	福富草紙	1巻		室町時代後期	
	33	○	百色百相	1枚	歌川国芳画	江戸時代	
	34	●	新版三十二相	6枚	小林清親画	明治10～15年(1877～1882)	
	35	○	百面相	1組			
	36	○	自由変化百面相	1組			
	37	○	百面相	1組			
	38	○	ボンチ絵はなし	1冊		明治30年(1897)12月18日	
	39	○	ボンチ百笑	1冊		明治31年(1898)12月5日	
	40	○	ボンチ博士	1冊		明治30年(1897)1月27日	
	41	○	カッポレボンチ	1冊			
	42	○	妙々ボンチ	1冊		明治31年(1898)11月10日	
	43	○	サザエさん童謡漫画双六	1枚	長谷川町子画	昭和25年(1950)	
iii) 怖い…？面白…？	44	A	小児遊之図	1枚		明治26年(1893)	
	45	B	五月遊	1枚		明治24年(1891)	
	46	A	鬼ごっこ	1枚		明治	
	47	B	図裡の寝覚め	1枚		明治	
	48	A	小学校	1枚		明治25年(1892)	
	49	B	浅草公園子供玉乗之図	1枚		明治25年(1892)	
	50	A	美人遊上巳	1枚		明治24年(1891)	
	51	B	当世十二月之内一月 最愛の令嬢	1枚		明治24年(1891)	
Ⅱ. ようかい界もへんな顔！							
	52	A	流行人形双六	1枚	歌川国郷画	安政3年(1856)	個人蔵
	53	B	昔咄赤本寿語禄	1枚	歌川芳幾画	万延元年(1860)	
	54	A	大新板化物飛廻双六	1枚			
	55	B	化物廻り笑草	1枚	長谷川小信画	明治初期	個人蔵 個人蔵
	56	○	北斎漫画	1冊	葛飾北斎画	文化11～明治11年(1814～1878)	
	57	A	化物づくし	1枚		江戸時代末期	
	58	B	当ものかわりあんどん	1枚	歌川芳藤画	明治	
	59	○	善知安方忠義伝	1冊	山東京伝作、歌川豊国画	文化3年(1806)	
	60	○	曉斎漫画	1冊	河鍋暁斎画	明治14年(1881)	
	61	●	神農絵巻	1巻		江戸時代	
	62	○	五趣生死輪図	1幅		天保3年(1832)	
	63	○	往生要集 寛政版	3冊		寛政2年(1790)	
	64	○	三世因果大経五悪図会	3冊		弘化5年(1848)	

	65	○	善悪地獄極楽双六	1枚		安政5年(1858)	藤原正匡氏蔵(兵庫県立歴史博物館寄託)
	66	●	酒呑童子絵巻	1巻		江戸時代	
	67	●	百鬼夜行絵巻	1巻		江戸時代	
	68	●	百器夜行絵巻	1巻		江戸時代	
	69	○	新板ばけものづくし	1冊	橋本貞秀画	江戸末期	
	70	○	化物尽	1冊	歌川貞重画	江戸末期	
	71	○	絵本百物語	1冊	桃山人作 竹原春泉画	天保12年(1841)	
	72	●	切小絵貼交帖	1冊			
	73	○	神戸人形 西瓜喰い	1点		昭和50年代	
	74	○	神戸人形 木魚叩きと手妻	1点		昭和50年代	
	75	○	神戸人形 お化けの館	1点		昭和50年代	
	76	○	神戸人形 鬼の舟遊び	1点		昭和50年代	
	77	○	新板二表面づくし	1枚	歌川貞景画	明治13年(1880)12月	
	78	○	上下絵	1枚	歌川国芳画	文化12~天保11年(1815~1840)	
	79	○	道外上下見ノ図	1枚	歌川芳虎画	文久2年(1862)6月	
	80	○	幻灯器	1点		明治	
	81	○	幻灯の種板 肝試し	10枚		明治	
Ⅲ. 福笑いー遊びと笑いー							
i) 懐かしのあそび	82	A	小供風俗 目次	1枚		明治30年(1897)	
	83	B	子供あそびさつきの戯	1枚		江戸時代末期	
	84	B	子供遊び	1枚		明治18年(1885)	
	85	A	小供風俗 かげえあそび	1枚	宮川春汀画	明治30年(1897)3月20日	
	86	B	小供風俗 たこあげ	1枚	宮川春汀画	明治30年(1897)2月5日	
	87	A	線香花火	1枚	宮川春汀画	明治20~30年代	
	88	B	シャボン玉	1枚	宮川春汀画	明治20~30年代	
	89	A	小供風俗 坊主起し	1枚	宮川春汀画	明治20~30年代	
	90	B	投扇興	1枚	宮川春汀画	明治20~30年代	
	91	A	小供風俗 おはじき	1枚	宮川春汀画	明治20~30年代	
	92	B	小供風俗 ままごと	1枚	宮川春汀画	明治20~30年代	
	93	A	折り紙・あやとり	1枚		明治39年(1899)	
	94	B	小供風俗 折りもの	1枚	宮川春汀画	明治20~30年代	
	95	○	ちえくらべ 折紙人形	1組		明治41年(1908)	
	96	○	桃太郎ヲリカミ(教育玩具)	1組		大正	
	97	B	小供風俗 めんこあそび	1枚	宮川春汀画	明治30年(1897)2月5日	
	98	○	メンコ(漫画)	1点		昭和・戦前	
	99	○	メンコ(キャラクター)	1点		昭和20年代	
	100	○	メンコ(キャラクター)	1点		昭和20年代	
	101	○	お面(ピカチュウ)	1点			
	102	○	お面(桃太郎)	1点			
	103	○	お面(ひょっとこ)	1点			
	104	○	お面(鬼)	1点			
	105	○	お面(はんにゃ)	1点			
	106	○	お面(孫悟空)	1点			
	107	○	お面(たこ)	1点			
	108	○	お面(ミッキーマウス)	1点			
	109	○	お面(ボバイ)	1点			
	110	○	お面(ピーターパン)	1点			
ii) 福笑いー正月遊びの定番!ー	111	A	東風俗福つくし 福わらひ	1枚	楊洲周延画	明治22年(1889)	
	112	B	少女遊戯すごろく	1枚	池田蕉園画	明治43年(1910)12月15日	
	113	A	福笑	1点	楊斎延一画	明治35年(1902)	
	114	B	しん板福わらい	1点	歌川芳艶画	幕末	
	115	A	『白縫譚』の表紙	1点	歌川国貞画	文久2年(1862)	
	116	B	オ笑ヒゲーム	1点		戦前	
	117	A	福わらひ	1点		明治38年(1905)	
	118	B	しんばん大福笑	1点		大正14年(1925)	
	119	○	爆笑ゲーム 笑ひの王様	1点		昭和・戦前	
	120	○	お笑ひゲーム	1点		昭和・戦中期	
	121	○	福笑い(おはなはん)	1点		戦後	
	122	○	福わらい	1点	野水昌子画	昭和・戦後	
	123	○	ジャングル大帝ふくわらい	1点		昭和30~40年代	
	124	○	こいでふくわらい 鉄腕アトム	1点		昭和30~40年代	
	125	○	Qちゃん目かくしゲーム	1点		昭和・戦後	
	126	○	ウルトラマン 目かくしゲーム	1点		昭和41年	
	127	○	ドラえもん すごろくふくわらい	1点		平成	
	128	○	それいけ!アンパンマン すごろくとふくわらい	1点		1990年代	
展示替え期間 A:7月13日[土]~8月4日[日]・B:8月6日[火]~9月1日[日]・●:場面・ページ替えあり・○:全期間展示							

【図表3】HEN 総選挙 投票結果

	5位	523票		10位	251票
	4位	524票		9位	255票
	3位	648票		8位	314票
	2位	874票		7位	440票
	1位	2,029票		6位	444票

総投票数 6,302票

執筆者紹介（掲載順）

藪田 貫（当館館長）

前田 徹（当館学芸員・主査）

藁科 宥美（当館学芸員・技術職員）

編集後記

兵庫県立歴史博物館紀要『塵界』第三二号をお届けします。本号には、巻頭に藪田館長の論考、次に前田主査学芸員による資料紹介、末尾には令和元年夏に当館で行われた特別企画展「へんがおの世界」を担当の藁科学芸員による展示批評、の計三本を掲載しています。いずれも興味深い内容となっております。是非ご味読ください。

なお、本号より紀要のデザインを若干変更しています。おもな変更点として、①表紙・目次位置の変更、②用紙の変更、③一部カラー紙面の導入、④【資料紹介】、【展覧会記録】といった分類の多様化、⑤HP上での電子公開、の五点が挙げられます。掲載内容と併せてご覧いただけますと幸いです。

（編集担当 竹内信・大黒恵理）

兵庫県立歴史博物館紀要

塵界 第三号

編集 兵庫県立歴史博物館
印刷 ウニスガ印刷株式会社
発行 令和三年三月二十三日

Printed in Japan©2021